※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真１）（表１）などと文中に記載し、右ページに（写真１）（表１）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

【様式１】

＜エントリーシート＞

※ 事 務 局 記 入 欄

No.：C-34

部門
校内研修部門

学校名・氏名
大津市立日吉中学校
校　　長　田川　学
研究主任　苗代峻平

活動名
地域と育てる確かな学力
新たな教育に向けた土台づくり

課題の設定：地域ぐるみで学力向上に取り組むことで地域の後継者を育てる

校区の課題解決のために 40 年前に発足した「日吉学区教育総合推進会議」(日吉学推)は、人権教育を基本に子どもたちに学力をつけることに取り組んできた。保幼小中高の教員と関係機関が学推を通じて学力向上プランを地域に発信することで、保護者、地域も地域人材育成のための学力向上に取り組めると考えた。

方針・計画：学校・保護者・生徒が作った学力向上モデルを発信し地域ぐるみで学力向上を図る

教え込むという教師目線を払拭するため企画段階から生徒、保護者が参画し生徒、保護者も馴染みやすいデザインを目指した。また、日吉学推や事務局会議などで保、幼、小、中、高の教員が直接、協議することで子どもの実態に即した学力モデルとなり地域にもアピールしやすいものになった。

活動内容：日吉学推を通じて活性化する校園連携と各校園の学力向上の取り組み

日吉学推の「学ぶ力部会」部員が協議し学力向上モデルを作成した。11 月の授業交流集会では、日吉中学校がモデルに基づいた授業を提供し幼児期から高等学校までの一貫した視点で協議を深めることができた。また、このモデルが校区内の学校、関係機関に掲示されることで育てたい子ども像が保護者、地域関係者に共有されるとともに、各校園が学力向上に取り組む道しるべとなった。

活動の成果：保護者の参加が子どもの進学へのあこがれを高める

保護者がモデルづくりに参加することで保護者、子どもの学力観を踏まえたモデルになり校園との連携が緊密になった。子どもたちはそれを元に将来に見通しを持つことができ、上級生の学びにあこがれを持つことができた。モデル作りに関わった保護者からは「この取り組みを通して、自ら学びに向かい、学んだことによって自分に何が得られたかが実感できる子どもに育ってほしい」と言う声が聞かれた。

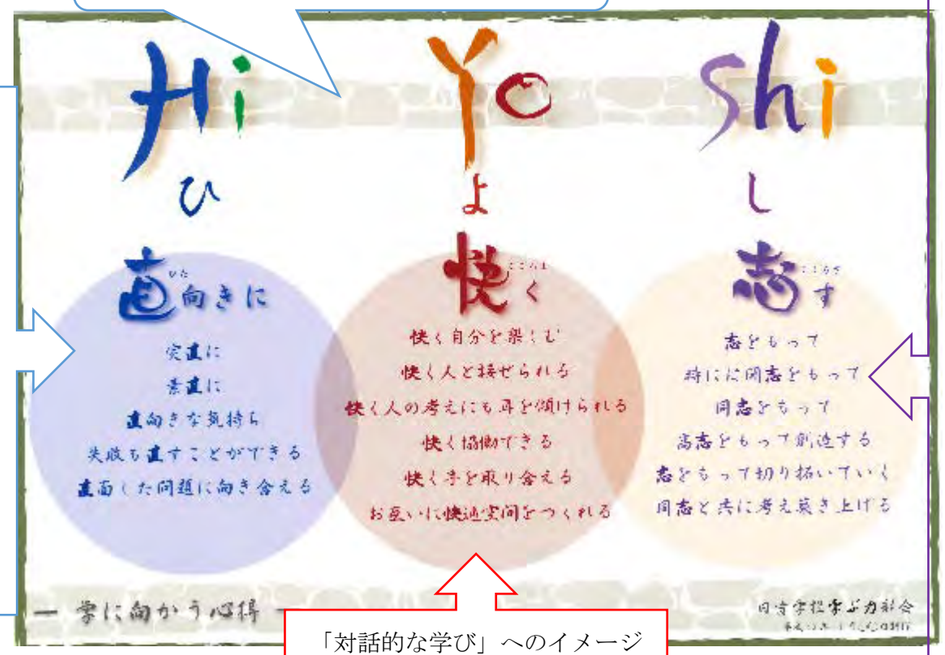
アピールポイント（アイディアや工夫）： ※3～5 つ程度の箇条書きしてください

・様々な石を組み合わせて強固にする穴太衆積みのイラストを取り入れ、一人ひとりを生かす教育理念を表現した。
・穴太積みは地域に残る世界的な遺産であり、これを用いることで独自の発信力を生かすことができる。
・保護者、生徒がモデル企画に関わり広い視点から主体的、対話的で深い学びの姿を具体化した。
・今後も地域、子どもの実態に即してアップデート出来るよう柔軟な取り組みを継続していく。

＜写真、図表添付欄＞

大企業の企業理念・企業ビジョンなどを参考（トヨタグローバルビジョンなど）にし、１つのことに縛られるのではなく、どんな価値観を大切にしたいのか、生徒自身が自分たちのあるべき姿、目指すべき道をイメージできるものを目指した。

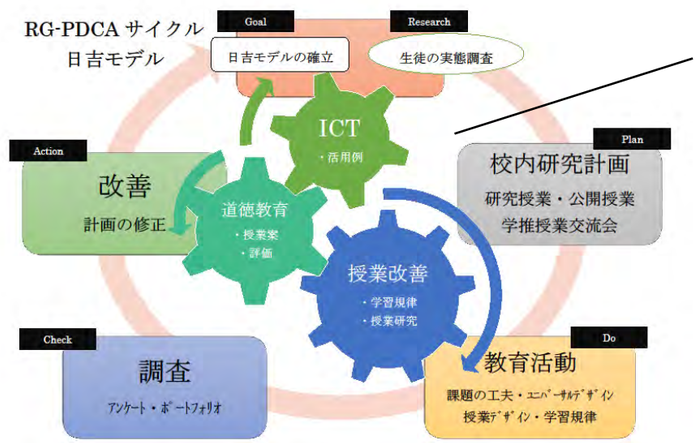
実際の穴太衆積みの写真をイラスト風に加工



「主体的な学び」へのイメージ
青色で爽やかなポジティブさを表現

「深い学び」へのイメージ
紫色が２色を混ぜ合わせてできることから創造を表現

「対話的な学び」へのイメージ
赤色で暖かさを表現



研究構想図

・学力向上に向けた土台作りとして校内研究として提案
・１学期に２回、夏休みに１回、２学期に２回の部会で検討
・１１月に授業交流を実施。保幼小中高の教員が合同で授業参観と協議会に参加